### 宮脇淳子:「モンゴル国だけでは モンゴルの歴史を語ることはできません」



和歌山県出身。京都大学文学部卒 業、大阪大学大学院博士課程修了、 学術博士。現在東京外国語大学·国 士舘大学非常勤講師。従来の東洋史 の枠組みを超え、中央ユーラシアの 視点に立った遊牧民の歴史と、草原 と農耕地帯を総合的にみる中国史を 研究している。主な著書に『最後の 遊牧帝国』(中国語版も出ている) 『モンゴルの歴史』『朝青龍はなぜ 強いのか?-日本人のためのモンゴ ル学』など。

4月7日、東京の岡田宮脇研究室 を訪ね、宮脇淳子先生にインタビュ ーしました。

記者:歴史研究のお立場からモンゴ ル国境外をも含めた広い意味でのモ ンゴル全体を俯瞰したお話をお聞か せ下さいませんか。

宮脇先生:もともと「パンモンゴリ ズム」は日本人から出てきた概念で す。日露戦争の頃「同じ言語、同じ 文化をもつモンゴルがなぜ一つにな れないのか」という考えが生まれま した。ただモンゴル人は先ほども申 し上げたように、一つに団結するよ りも、それぞれが能力を発揮するこ とを重んじます。

「団結」よりは「連合」です。モ ンゴル人はそれぞれ生き方が違い ます。意見をまとめようという話に はならないのです。だからこそユー ラシア各地に散らばった状態で現在 概念を取っ払う必要があるで まで生き延びてきたとも言えるので す。現在モンゴル国でマジョリティ のハルハ・モンゴル人は清朝時代に は田舎者でした。内モンゴルのモン ゴル人から悪口を言われたりからか 以降を「モンゴル国史」、そ われたりしていました。内モンゴル れ以前は暗黒時代としていま のモンゴル人は清朝皇族と結婚関係 した。民主化によってロシア を深めていたため、北京で贅沢に暮 のくびきを外すことはできま らすなどして自負心が強かったのでしたが、以前の歴史観が崩れ す。清朝が倒れた時、満洲人と切っ てしまったらどうすればいい ても切れない関係をつくっていた内 のか。歴史学者も困っていま

同じく特権の維持を望んだ一方で、 下層の遊牧民はモンゴル国といっし ょになって独立したいと考えるな ど、団結して動けなかった面があり ます。また、内モンゴル側は北京に 近くゴビ沙漠の障壁がなかったた め、中国軍閥に攻め込まれて独立で きなかったのです。

その後、内モンゴル東部のハラチ ン・モンゴル人などは日本の支援を 受けて独立運動を続けました。一方 北方のボリヤド(ブリヤート)・モン ゴルは17世紀からロシア領になって いました。結局モンゴル国が独立で きたのは、北からボリヤド・モンゴ ル人が、南から内モンゴル各部族が はせ参じ、法律を作ったり、大臣に なったり、軍隊を指揮したりして力 を合わせた結果なのです。

モンゴル民族の歴史は社会主義時 代にはタブーで、民主化した時には モンゴル語で書いた資料がモンゴル

国には何もなく、自らの歴史 にアクセスすることができま せんでした。1992年まではチ ンギス・ハーンもタブーでし た。民主化後に私がモンゴル 国を初めて訪問した時、チン ギス・ハーンについて話して 欲しいと頼まれたので通訳を 付けていろいろお話しまし た。チンギス・ハーンのこと は知っていてもその息子や孫 のことは何も知りませんでし た。それでモンゴル帝国歴代 ハーンの切手のホビライとウ グデイの肖像が入れ替わるよ うな大きな間違いも起こった のです(この切手は今も郵便 局で売られていて恥ずかしい です=記者)。これには、モ ンゴル人の仕事がアバウトだ ということもあるかも知れま

モンゴルについては、日本 人が考えるような一つのモン ゴル、昔も今もずっと同じモ ンゴル人、モンゴル国の領土 内で一つの国の歴史がずっと つながっているというような しょう。

モンゴル国だけではモンゴ ルの歴史を語ることはできま せん。社会主義時代は1921年

モンゴルの貴族階級は、清朝皇族とす。政治的に差し障りがあるため、 内モンゴルや新疆ウイグルなど中国 くことはできません。またモンゴル の歴史全体を書くと、モンゴル国を 構成しているモンゴル人ばかりが歴 史の中心でなかったことが明らかに なってしまいます。

> また、ハルハとオイラド(オイラー ト)がずっと戦争していたことも大 っぴらに書けません。西部が新疆ウ イグルといっしょになって独立する などと言いだすと困るからです。旧 す。愛国主義的な歴史を書かなけれ ばなりませんが、なかなか難しいの です。モンゴル民族全体の歴史をま とめた私の『モンゴルの歴史』がモ ンゴル語に翻訳されることはそうい るでしょう。 う意味で困るのかも知れません。

モンゴル帝国の時代までさかのぼ って考えると、カザフスタンもキル

ギスなども含まれてしまいます。狭 義の「モンゴル」はなにかと言え 領内のモンゴル人について自由に書 ば、モンゴル語とチベット仏教を共 通の文化とする人々です。

> 自分たちのモンゴル文化を21世紀 以降も維持し発展させていくため にどうすればいいかというと、世 界のモンゴル民族が政治的な境界 を乗り越えて、文化的に自分たち の歴史と文化を大切にしていこう という運動を進めていくことが重 要だと思います。

例えば、西モンゴル・オイラドにつ 体制が崩壊しても、モンゴル全体の いて言えば、ロシアのハリマグ (カル 歴史は非常にセンシティブな問題で ムィク) 共和国や新疆ウイグルなど国 境を越えた文化交流が深まりつつあり ます。「国」だ「自治区」だなどと細 かなことにとらわれず、共通の文化と いう広い視点で交流を進める必要があ



# モンゴル通信

国営モンツァメ通信社

住所: Jigjidjav Street-8, Ulaanbaatar, Mongolia

Tel: +976-(11)-327294

Fax: +976-(11)-327857

E-mail: montsushin@hotmail.com

登録番号: 1268

編集担当:T.ナランマンドハイ

日本語監修: 内田敦之

翻訳:G.オドツェツェグ

Kh.アルビス

デザイン:T.ミャグマルスレン

#### モンゴル通信

(No.15の続き)

#### 宮脇淳子:「日本人の新しい方向を考える時、 モンゴル人の生き方は大いに参考になります」



和歌山県出身。京都大学文学部卒業、大阪 大学大学院博士課程修了、学術博士。現在東 京外国語大学・国士舘大学非常勤講師。従来 の東洋史の枠組みを超え、中央ユーラシアの 視点に立った遊牧民の歴史と、草原と農耕地 帯を総合的にみる中国史を研究している。主 な著書に『最後の遊牧帝国』(中国語版も出 ている) 『モンゴルの歴史』『朝青龍はなぜ 強いのか?-日本人のためのモンゴル学』な

4月7日、東京の岡田宮脇研究室を訪ね、 宮脇淳子先生にインタビューしました。

記者:日本人とモンゴル人の関係につい てどのようにお考えですか。とくに初場 所で優勝したばかりの横綱朝青龍が2月 に電撃引退する事態になってしまい、外 交問題にまで発展するのではないかな どと一時はちょっとした騒ぎになりまし

宮脇先生:そうですね。日本人の傾向と して、万事、集団対集団、国対国という 形で考えてしまい、個人の意見を重んじ ないということがあると思います。朝青 龍引退の問題が起こると、日本人は、モ ンゴル国、モンゴル国民全体が怒ってい る、さあ大変だ、となってしまう。この 問題が起きた時、私が教えている大学の 授業で、日本人学生たちが「モンゴル人 の日本に対する印象が悪くなるのではな いか」と心配していました。それで、モ ンゴル人留学生にそのことを聞いたとこ ろ「モンゴル人はそれぞれ意見が違いま すから」と答えたので、日本人学生安心 するという場面がありました。日本人が 考えるのとモンゴル人のそれとは全く違 います。だいたい国中が全部同じ意見と いうのは、少し考えればおかしいと分か ると思います。日本人は異なる意見を排 除して一つの意見に収斂させていく。つ まり違う意見を全て切り捨ててしまう傾 向があります。「KY (空気読めない)」 などと一つの意見・価値観を押しつけよ うとする。果たしてそれが良いことかど うか。この点はモンゴル人と決定的に違 うと思います。日本人は海に囲まれた島 国で、外部からの侵略も受けず互いに仲

す。しかし、大国と陸続きの厳しい環境 にあるモンゴルは全く違います。飢餓に も耐えなければなりません。このような 厳しい環境では、個人の能力を100%発 揮することで道を切り開くことが美徳 で、また周囲にも認められます。人に遠 慮する必要がなく、ガンガン喧嘩しても 後でケロリとしていますね。日本人は周 りとぶつからないように遠慮して縮こま る。周辺の環境のせいで人間関係が全く 違います。モンゴルではたくさんの家畜 に十分に草を食べさせるためには、他人 がすでに放牧した場所に行ってはいけな い。遊牧生活では他人とは常に違うこと をしなければ生きていけません。日本の 「隣百姓」とは全く正反対の思想です。 多くの家畜の命を守る遊牧民は、たとえ 子供といえども自分一人で判断しなくて はならない。天気がいつ変わるか、どち らの方角に行ったらいいか、間違った判 断を下したら全部死んでしまうかも知れ ないのです。他人に頼っていれば何とか なる、というようなことは遊牧生活では あり得ません。だから、モンゴル人の文 化には、とりあえず周りに合わせる、と いう考えはないのです。相撲の世界で言 えば、個人の能力をいかに発揮するかが 最も重要だと思うのです。その点モンゴ ル人力士は有利です。日本人力士の場合 は、先輩はどうか、部屋はどうかなどを 気にしながら動く必要があり、それだけ でも縛られてしまいます。また、モンゴ ル人力士の活躍で大相撲の決まり手が70 手から82手になりましたが、日本人力士 はそれを学ぼうとしないそうです。モン ゴル人力士から新しい技を取り入れよう としない。こんなところにも日本人の閉 鎖性、そして人と違うことをやらない傾 向が象徴的に見られます。さて朝青龍の 問題ですが、一つには朝青龍と同じよう な強い人格を持った人がそばにいて直接 いろいろ教えるべきでした。親方も相撲 協会もきれいごとばかり言っているわり には、責任を取らない。裏ではいろいろ なことをやっているので、「何だ、この 程度か」と朝青龍になめられてしまった のではないでしょうか。「きまりだか ら」と言っても成文法がない。厳密には 国技でもない。神に奉納すると言いなが ら心からやっている風でもない。それで 朝青龍から「お金を集める興業じゃない か、それもおれのお蔭で儲けてるんじゃ ないか」というように思われてしまった のでしょう。しかも、結局朝青龍にすべ ての責任を押しつけて放り出してしま い、何も学ぼうとしませんでした。自分 たちが「大切だ」と言っているものをモ ンゴル人に丸投げしているのが現状でし ょう。相撲協会はせっかくモンゴルから 力士を呼んできても「日本式にやれ」と しか言わない。もし何か起こると、全部 モンゴル人のせいにしています。これで は駄目です。二つめは、スポーツ記者と の関係があったと思います。休場中のサ ッカー問題は、ボランティアで子供サッ 良く暮らしている間に、デリケートで傷 カーに出て10分ほどちょっと体を動かし つきやすい、そして均質な民族性になっ ただけだったのに、それをねらって撮 てしまった。そのせいで、モンゴル人も ったようです。駐日モンゴル大使館まで 日本人も同じだとつい考えてしまうのでが謝罪しました。朝青龍本人には「おれ

は横綱だ。記者のおまえたちより偉いん だぞ」という思いがあったでしょうが、 記者は記者で「おれは日本人だ。文句が あるならモンゴルに帰れ」という屈折し たものがあった。そんな関係がずっと続 いていて、記者は朝青龍の悪口しか書か なかった。特に朝青龍に嫌われていた記 者が個人的な恨みで、個人的な問題を国 と国との大きな問題にして書き立てたこ ともあったでしょう。記者はそれでうっ ぷん晴らしをしていました。これもある 意味で文化の違いと言えると思います。 集団でものを考える日本人と個人の力量 で相手との関係を決めるモンゴル人とい う違いです。例えば、朝青龍と旭鷲山の 問題も、モンゴル人から見れば若くて も実力のある朝青龍が上なのですが、日 本人的には「先に来て道を切り開いた先 輩にゆずれ」となる。このような違いが あったと思います。また日本の記者は、 モンゴルの文化を全く紹介しない。国際 関係はまず相手をよく知ることが大切で しょう。モンゴルから来た朝青龍を正し く理解するために、モンゴルそのものを 説明する記者がいなかったのです。記者 は、他人とは違うネタを発見してこそ面 白い記事が書けるのにそれをしない。日 本の新聞の中身が全て同じなのは象徴 的です。これは日本のマスコミの欠点 ですね。実は2007年に『朝青龍はなぜ強 いのか?日本人のためのモンゴル学』と いう本を出版しました。当時からバッシ ングを受けていた朝青龍をダシにして、 日本人が知らないモンゴルの話をあれこ れしようとしましたが、さっぱり売れま せんでした。本のタイトルから書店のス ポーツコーナーに並ぶことになり、友人 からは「どこにあるのか分からない」と 文句を言われ、スポーツコーナーで手に した人「相撲のことが何も書いていない (実はモンゴル相撲のことは書いてあり ます)」とカンカンで、さんざんな結果 になりました。このことから、相撲が好 きな日本人は、モンゴル自体には何の興 味もないということが分かったのです。 大多数の日本人は、自分に直接関係する こと、日本国内のことにしか普通は関心 がないということのようです。さて、日 本人とモンゴル人を比較して見てきまし たが、ここで日本人の劣化についても少 し言及したいと思います。ぬるま湯のな かで生きてきたために日本人はずいぶん 劣化してしまったようです。このような 状態では、個人の力量が問われるグロー バルな時代には生き残ることはできませ ん。外国人がどんどん日本に入ってきて います。日本人の学生を見ていると個人 的なモチベーションが何もありません。 やりたいこともない。その一方で中国人 留学生は「日本人に生まれただけでこん なに優遇されている」と差別されている ことに怒り、努力しています。これから ではありません。今までのやり方で駄目 なら、次にどうするのか考えるべき時が 来ているのです。このままでは日本はも っと落ちていくのではないでしょうか。 みんなそう言っています。落ち込んだ時

にどうするのか、個人が生き残る方法・

道を考えておく、これこそが「自己責 任」だと思います。国がなくなってしま ったらどうするのか。日本人は国がなく なったこと(戦後の占領時代)を忘れて しまおうとしているようです。みんなで 空気を読みながら生きているから、誰に でも分かることについても嘘をついてご まかしています。政治家や官僚は「前例 がない」とか「棲み分け」とかで完全に フリーズしてしまっています。事実を明 らかにして未来を考えなければ。本当の ことを言えば、税金が上がっても、暮ら しが厳しくなっても我慢できます。この ままでは日本人はみんな泥船で河を渡る ようなものです。自分の頭で考えてそこ から抜け出す人間がいっぱい出てくれ ば、既得権益にしがみついている人間だ けが沈むことになり、日本も何とか生き 残ることができるでしょう。日本人の新 しい方向を考える時、モンゴル人の生き 方は大いに参考になると思うのです。開 発途上の厳しい条件下でもモンゴル人は みんな何とか楽しそうに生きています。 日本にはこんなにいろいろなものがある のに、もっとうまくやれないものでしょ うか。決まった境界をもたない、個人の 能力をとことん発揮する、そんなモンゴ ル人の特徴が、グローバリズムの進んだ これからの世界で重要になるのではない かと思っています。どこの国に行っても モンゴル人同士のネットワークでやれ る。厳しい環境を笑い飛ばしてしまうし たたかさ、これからの世界ではグズグズ 内向きになっていては生きていけませ ん。ユーモア好きでみんなで困難を乗り 越えてしまう。そういうモンゴル人の長 所から日本人は学ぶべきです。モンゴル を鏡にすることで日本をもっと良くする ことができると思います。さて、モンゴ ルの地下資源が世界の注目を浴びて、日 本も触手を伸ばしています。でも日本人 がモンゴルそして世界の国々を相手に太 刀打ちできるとはどうしても思えないの です。最初からやめた方がいいのではな いでしょうか。日本人は自分たちの最も 得意とする分野に立ち返るべきです。世 界中の人たちの将来の幸せにつながる技 術革新を必死にやって、政府も、日本国 民の税金をこのことに重点的につぎ込む べきだと思います。私個人のお話を少し してこの質問の答えを終わろうと思いま す。私は小学生の頃から、日本社会があ まりにも訳がわからなくて、疑問で頭が はち切れそうになっていました。それで 日本から脱出したかったのか、現代から 離れた古い時代に行ってみたかったの か、モンゴル史を選ぶことになりまし た。広い草原から小さな島国の日本を見 直して考えてみたかったからではないか と後付で理由を考えたこともあります。 私はモンゴルを研究してつくづく良かっ たと思っています。異文化を知ることで は鎖国して日本だけでやっていける時代 窮屈な日本を相対的に見ることができる ようになって、ストレスもずいぶん減っ て楽になりました。

> 記者:本日はお忙しいところ、ありがと うございました。

> > (聞き手:内田俊之)

## モンゴル通信

国営モンツァメ通信社

住所: Jigjidjav Street-8, Ulaanbaatar, Mongolia

Tel: +976-11-327294 Fax: +976-11-327857

E-mail: montsushin@hotmail.com

編集担当:T.ナランマンドハイ

日本語監修: 内田敦之

訳:G.オドツェツェグ

Kh.アルビス

デザイン:T.ミャグマルスレン